

新しいマンモグラフィ装置

放射線科

診療放射線技師 谷口 菜々

はじめに

茅ヶ崎市立病院では、昨年度から新たに乳腺外科医の先生をお迎えし、乳腺疾患の診療を専門とする乳腺外科を設置しました。

これに伴い、昨年12月に新しいマンモグラフィ装置「MAMMOMAT Inspiration VB60 (SIEMENS 社製)」を導入し、今までのマンモグラフィ検査に加えてトモシンセシス撮影やバイオプシーといった検査を行っています。



マンモグラフィ検査

マンモグラフィ検査では、乳癌の早期発見を目的としたスクリーニング検査と組織性状診断のための精密検査があり、視診や触診では判らない微細な病変を描出することができます。主に皮膚、皮下脂肪、血管、乳管、乳腺、腫瘍や微細石灰化などを観察します。

検査では、左右両方の乳房をそれぞれCC(頭尾方向)とMLO(内外斜位方向)の2方向で撮影を行い、合計4回の撮影を行います。このとき乳房全体を均一な厚さになるように圧迫して撮影します。圧迫することにより多少の痛みを伴いますが、乳房全体の重なりを少なくすることにより、広く微細な病変を観察することができ、被ばく線量を少なくします。基本的に2方向で撮影し、必要に応じて他の方向、拡大撮影、スポット撮影を追加します。

茅ヶ崎市の検診では40歳代ではCCとMLOの2方向、50歳以上はMLOの一方のみを実施しています。

トモシンセシス撮影

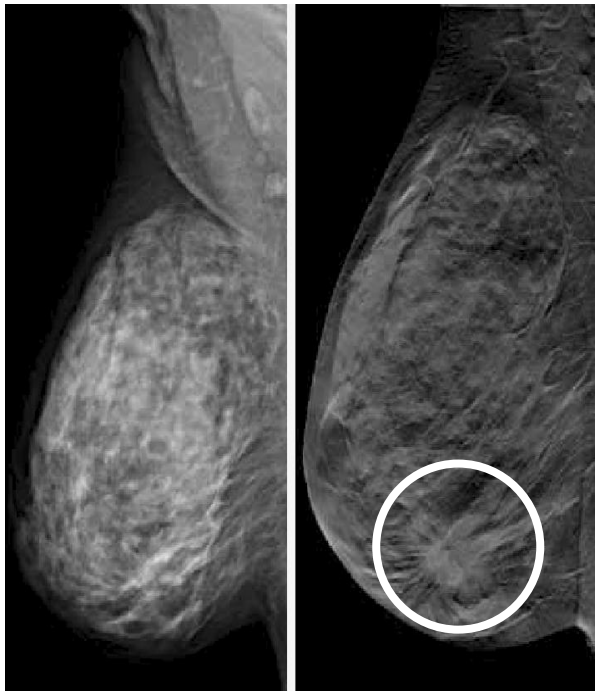
トモシンセシス撮影とは、CT検査のように角度を変えて複数の方向から乳房を撮影し、収集した画像データを三次元的に再構成することで、乳房を1mm間隔のスライスで観察することができる最新技術の撮影です。

通常マンモグラフィ検査では乳腺も腫瘍も白く写るため、日本人に多いとされている乳腺濃度の高い乳房では正確な診断が

できなくなるおそれがありますが、トモシンセシス撮影では CT 検査のように薄いスライスで乳房を観察できるため、乳腺と腫瘤の鑑別がしやすくなります。

茅ヶ崎市立病院におけるトモシンセシス撮影では、最初に通常の CC 撮影を行い、その後 MLO 撮影のポジショニングのままトモシンセシス撮影を行っていますので、圧迫される回数が増えることはありません。

また、人間ドッグのオプションで、この最新技術のトモシンセシス撮影をうけていただくことができます。



↑ 2D 画像

↑ トモシンセシス画像

バイオプシー

超音波検査やマンモグラフィ検査、他の検査などで乳癌の診断がつかない場合、マンモグラフィで病変の位置を確認しながら病変の一部を採取して組織検査を行います。これがバイオプシーです。

バイオプシーは、椅子に座るか、ベッド

に寝た状態でマンモグラフィ検査と同じように乳房を圧迫板で挟むようにします。画像を見ながら乳房に局所麻酔をし、直径 3 mm ほどの針で病変部を吸引しながら採取します。組織を採取したら傷口を止血して終了となります。

切開生検に比べて傷口が小さく、外来で行えますので入院の必要はありません。

最後に

今、日本女性の 12 人に 1 人が乳癌にかかるといわれています。亡くなる方は年々増加し、今では 1 年間に約 1 万 3 千人が亡くなっています。残念ながら現在乳癌の予防法はありません。しかし早期発見であれば、約 90% の人が治癒します。早期発見のためにはセルフチェックや検診が大切です。

検診で要精密検査となった方や、乳房でしこりや違和感などの症状がある方はお気軽に乳腺外科外来を受診してください。

当院ではマンモグラフィ検査は女性技師が担当しています。撮影時に不安なことや質問などがあればお気軽にお声がけください。

